入国資格

2013/11/10
シリーズ～神の国～

マタイ福音書18章1～5節

そのとき、弟子たちがイエスのところに来て、「いったいだれが、天の国でいちばん偉いのでしょうか」と言った。そこで、イエスは一人の子供を呼び寄せ、彼らの中に立たせて、言われた。「はっきり言っておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ。わたしの名のためにこのような一人の子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。」

神の国で一番偉いのは誰?

- 誰が神の国で一番偉いのか尋ねた弟子たち
  - 弟子たちの中での「序列」を決めたかった
- 子どものようにならなければ神の国「入る」ことさえできない,とイエス様は言われた
  - 当時,子どもは人間の数にも入れられなかった
  - 「心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない」
  - 誰が偉いかと考えている者は入る資格すらない
- では「子どものようになる」とはどういうことか
  - 大人にとっては「心を入れ替える」作業である

子どものようになる

- 純粋(純真)である
  - 疑ったり,批判したりしない
- 素直である
  - 思ったことをすぐ行動に表す
- 単純である
  - よけいな知識や計算がない
- 受け入れる力,吸収する力がある
  - 成長の可能性がある

子どものように自分を低くする

- 神の国で一番偉いのは
  - 「自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ」
- 「自分を低くする」とは「へりくだる」こと
  - かつては日本人の最高の美徳だった！
- 自分を低くするとは仕える者になること
  - 「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」マルコ9:35

キリストのへりくだり

何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。＜フィリピ2:3～8＞

へりくだりの敵,「誇り」

- 人間が生きていくのには「誇り」が必要だが
  - 「人の国」は人間同士が比べ合い,競い合う
  - 勝ち残って高ぶるか,負けて傷つくか
- 神の前では誰も誇れない
  - 「もし、彼が行いによって義とされたのであれば、誇ってもよいが、神の前ではそれはできません。」ローマ4:2
- 間違った誇りは悪い影響を与える
  - 「あなたがたが誇っているのは、よくない。わずかなパン種が練り粉全体を膨らませることを、知らないのですか。」コリントI 5:6

正しい「誇り」を身に付けよう

- 神を誇る
  - 「誇る者は主を誇れ。」コリント一1:31,二10:17
- 苦しんでいること（苦難）を誇る
  - 「苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。」ローマ5:3～4
- 弱さを誇る
  - 「すると主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ』と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」コリント二12:9